(C)河北新報社

姜尚中 思索の旅 「1868～」〈22〉

第4章 天災という宿命 ⑥

一方的配分 地域力削ぐ

創造性を阻む

大震災後に進められる災害復旧工事などの巨大事業の多くは、防災集団移転、土地区画整理、復興再開発などとともに、「人間の顔」をしたコミュニティーの再生を妨げる「復興災害」の面がないとは言えない。神戸の至る所に林立するマンション群と拡幅された道路を見る限り、「創造的復興」に相応しい「創造的コミュニティー」の復興はどうしたのか、疑問に思わざるをえない。

この点は、東日本大震災の被災3県に及ぶ総延長400キロの巨大防潮堤計画も同じだ。

トラックやブルドーザーがひっきりなしに動き廻り、耳をつんざくような機械音が響く気仙沼市の海岸に建ち始めたコンクリートの防潮堤。のどかな港町の海の光景を、有無を言わせず遮断するような無機質的な佇まいには寒々とした感慨しか浮かばない。雪まじりの北風が吹き寄せる中に巨大な異物のようにそそり立つコンクリートの塊。それを想像するだけで、心がかじかんでしまいそうだ。

災害復旧は行政の専権事項という名のもとに総工費1兆円規模の巨大事業が一方的に決まったと言われている。そこには、官治集権の上意下達の意思が垣間見えるが、それがめぐりめぐって「創造的コミュニティー」の再生を阻んでいるとも言える。

「公助」は限界

しかし、阪神・淡路大震災から導き出される教訓は、国を中心とする「公助」の限界であり、行政や公的機関だけでなく、NGO（非政府組織）やNPO、さらに、地域コミュニティーといった広義の市民社会の力量が試されていることである。いや、もっと言えば、地域の住民の一人一人、そしてその交わりから成り立つコミュニティーが主人公にならなければならないということである。だが、このことは、国や行政が自らの本来的な役割を縮減し、それを自治体や地域、市民社会に転嫁すればいいということではない。

国や行政は、被災地の住民の不幸を出来るだけ少なくし、地域が、住民が、「創造的復興」に向けて歩んでいくために必要な財とサービス、マンパワーを供与し、現実に合わせた法制度の改変・整備によって持続的かつきめ細かな支援を続けていく義務を負っている。この点で、阪神・淡路大震災の教訓がどれだけ東日本大震災に活かされたのか、はなはだ疑問だ。

問われる政治

政治とは、「価値の権威的配分」にほかならないとすれば、社会の希少な資源、財やサービスをどこに重点的に注ぐのか、その優先順位こそが、政治のアルファであり、オメガであると言っても過言ではない。大震災を通じて、コミュニティーや地域、その中に包摂されるべき社会的弱者も含めた住民や市民の暮らし、その持続可能性のために限られた資源や財貨をどう振り向けるのか、そのことが問われているのである。

増え続ける防衛費や福島第1原発事故の汚染水すら完全にコントロールできない状況下の2020年の東京五輪開催など、果たして限られた価値…希少な資源や財貨、サービスが、地域本位、市民社会本位に配分されていると言えるだろうか。その歪な配分が、地域の消耗を招き、地域や市民の活力を削ぎ、ひいては日本全体の「地域力」の減退をもたらしていると言えないか。大震災をはじめとする天災は、「価値の権威的配分」にかかわって、日本の政治の在り方そのものを問い続けているのである。

（カン・サンジュン、政治学者・熊本県立劇場館長）＝次回は10日掲載

気仙沼市に建設された、窓がついた防潮堤を見る姜さん

culture

堤焼継ぐ意気込み 作品に

仙台・8日から「3代展」

4代目乾馬さんの遺作も

仙台を代表する伝統工芸堤焼の魅力を紹介する「堤焼乾馬窯3代展」が8～18日、仙台市青葉区のしまぬき本店ギャラリーで開かれる。茶道や華道の世界で愛され、5月7日に88歳で死去した4代乾馬さんの遺作をはじめ、長男久馬さん(49)、次男和馬さん(45)、長女の息子峻さん(30)ら3世代の作品を並べて伝統を受け継ぐ意気込みを示す。

深みのある赤を基調とする辰砂や粉をまぶしたような白い粉引、堤焼のシンボルといえる海鼠釉の湯飲みや茶わんなど約80点を展示する。乾馬さんが生前に制作し、とっくりや経筒の形をした花入れや皿も並べる。

幕末から明治初期に活躍した六世尾形乾山こと三浦乾也が仙台を訪れ、初代乾馬に書写を許した秘伝の書「乾山秘書」の複製品も飾る予定。

泉区上谷刈に工房を構える乾馬窯は堤焼を受け継ぐ唯一の窯元。粘土は青葉区台原、釉薬の原料となる岩石は泉区根白石などから採取し、全てを地元産で作る。展示販売や予約制で陶芸を体験できる施設を併設する。

制作に取り組む針生峻さん（手前）と見守る久馬さん（左）、和馬さん＝泉区の堤焼乾馬窯

工房は東日本大震災で被災し、登り窯など四つの窯や建物が損壊。素焼きや完成品のうち9割が壊れた。現在は東京の食品メーカーなどから支援を受け、二つのガス窯を修理して使っている。被災地支援の一環として東京のイベントに招待されたり、制作を依頼されたりすることが増えたという。

故乾馬さんは東北各地から受け入れた通算で数十人の弟子を育て愛された。久馬さんは「父は亡くなる前日にも辰砂のことを表す『赤』と言葉を発したほど、焼き物に一生をささげた。残された家族で力を合わせて挑戦を続けたい」と話す。

和馬さんと、3年前から制作に加わった峻さんはそれぞれ「3人のいいところを発揮したい」「自分の持ち味が出せるまで上達したい」と意気込む。

8月30日～9月4日、青葉区の晩翠画廊では、4代乾馬さんの指導を受け、宮城県内で制作を続ける弟子4人の作品を含めた「乾馬窯師弟展」を予定している。

両展とも連絡先は乾馬窯022（372）3639。

デビュー作で太宰治賞 作家・岩城けいさん

第2作「Masato」刊行

寄る辺なさ掘り下げる

アフリカ難民の女性が言葉を獲得し、異国に根を下ろす姿を描いたデビュー作「さようなら、オレンジ」で太宰治賞、大江健三郎賞を受けたオーストラリア在住の作家、岩城けいさん。故郷を離れて暮らす人々の寄る辺なさを丁寧に掘り下げる作品は、普遍性をはらむ。

「私はありふれたものを書きたい。ありふれているからこそ、そこに何かがあるんです」

昨年刊行された第2作「Masato」（集英社）は、家族の都合でオーストラリアに移住した小学生の真人が、新しい環境に戸惑いながら英語を学び、成長する過程を描いた。

子供とは大阪弁で会話するという岩城さん。「親の伝統や文化を引き継いでほしい」＝東京都千代田区の集英社

自分の思いを言葉にできず、誤解を受けることもあった真人が、サッカーを始め、学校にも居場所を見つける。真人の目から見える世界は、急速に広がっていく。

「言葉を獲得する過程は子供でも苦しく、ストレスがある。でも、柔軟性は大人よりずっとある」。少年の内面の揺らぎに想像力で迫った。

見守る母親の目線にも胸が締め付けられる。真人が話す英語にいらだち「自分の子供が英語にのっとられたみたい」と感じる母親。彼女の世界は広がらず、閉じたまま。

「子育てに専念するお母さんは社会とのつながりをなくして取り残される。日本でもそうでしょう？」。「真人」は「Masato」となって自立し、母親はその背中を見送るだけ。岩城さんは「子育てとはこういうもの」としんみり語った。

大学時代の交換留学がきっかけで渡豪し、職を得て移住した。日本人の夫との間に娘と息子がいる。永住資格を得ているが「現地の人間じゃないということははっきり分かる。今までも常に自分はアウトサイダーだった」。足元が揺らぐ心もとなさを繊細にすくい上げられるゆえんだろう。

暗殺時所持の刀など200点 全国4カ所「坂本龍馬」展

来年、没後150年を迎える幕末の志士、坂本龍馬（1836～67年）に関する最新の研究成果を紹介する特別展「坂本龍馬」が、今秋の京都国立博物館（10月15日から）を皮切りに長崎、東京、静岡の全国4カ所で開かれる。暗殺時に佩用（はいよう）していたとみられる刀や近年見つかった書簡を含め、貴重な資料約200点がそろい、歴史ファンの注目を集めそうだ。

目玉となる刀「銘吉行　坂本龍馬佩用」は、1931年に龍馬の子孫から同館に寄贈された。直刀に近い形や刃文から、龍馬の刀とするには異論もあったが、昨年、坂本家の資料の中から龍馬の刀として伝えられてきたことを示す文書を発見。最新機器による刃文の調査結果も合わせ、龍馬暗殺時に所持していた刀である蓋然（がいぜん）性が高まった。

形の変化も1913年に火災にあった際、研ぎ直されていたためという。

他にも、2014年にテレビ番組の取材中に偶然見つかった直筆の書簡「後藤象二郎宛『越行の記』」（京都会場）や、高知県外での展示は初めてとなるなぎなたの免状「北辰一刀流長刀兵法目録」（京都・東京会場）などの書簡も見どころだ。

刀 銘吉行 坂本龍馬佩用＝江戸時代 京都国立博物館蔵（同館提供）

県からのお知らせ

©宮城県・旭プロダクション

※日程や申し込み方法など、各お知らせのより詳しい内容は㊞にお問い合わせください。アドレスを掲載しているお知らせは、ホームページにも詳しい情報があります。
※東日本大震災に関する各種制度および相談窓口などの情報は、データ放送（NHK総合、ミヤギテレビ）で配信しています。

指定管理者の募集

県有施設「県民の森」のほか17施設を、県に代わって管理する指定管理者を募集します。
●対象／県民に良質なサービスを安定的に提供し、公平で効率的な施設管理をしていただける民間事業者や団体など
●募集期間／施設により異なります。
※募集施設や募集内容、応募方法など詳しくは下記へお問い合わせください。
㊞ 県行政経営推進課 ☎022(211)2239
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gyokei/

少年消防クラブ交流会（全国大会）合同訓練

全国から40以上の少年消防クラブが南三陸町に集結し、消防の実践的な活動を取り入れた、競技形式の訓練を行います。将来の地域防災の担い手として期待される子どもたちの活躍を応援するため、ぜひ観覧においでください。
●日時／8月4日(木)午前9時～午後3時
●場所／平成の森しおかぜ球場（南三陸町）
【主催】消防庁
㊞ 県消防課 ☎022(211)2374

福島原発事故による損害賠償についての説明会および個別無料相談会

●内容／原発事故による損害賠償の概要などについての説明および弁護士による個別相談
●対象／県内の法人・個人事業者、個人など
●日時・場所／①7月13日(水)・県石巻合同庁舎②7月20日(水)・県大崎合同庁舎③7月23日(土)・県大河原合同庁舎④7月26日(火)・県気仙沼合同庁舎①～④いずれも午後1時30分～3時30分⑤7月28日(木)・県仙台合同庁舎・午後6時30分～8時30分
●定員／【説明会】定員無し【個別無料相談会】①～⑤いずれも6人程度（先着順）
●申し込み／①7月8日(金)②③7月15日(金)④⑤7月22日(金)までに、所定の申込書に必要事項を記入し、ファクシミリ、Eメール、郵送(必着)により下記へ
●申込書／県各合同庁舎で配布またはホームページからダウンロード
㊞ 県原子力安全対策課
【申込先】〒980-8570（所在地記載不要）原子力安全対策課
☎022(211)2340 FAX022(211)2695
Eメール gentaij@pref.miyagi.jp
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gentai

応急仮設住宅の入居期間延長

応急仮設住宅の入居期間の延長が決定しました。
石巻市、名取市、女川町で被災された方は1年間延長されます。塩竈市、気仙沼市、多賀城市、東松島市、山元町、南三陸町で被災された方は、特定延長の対象の方に限り、最長で平成30年3月31日まで延長されます。
手続きについては、順次、入居者や貸主の皆さんへご案内します。なお、延長とならない方には、入居期間終了についてお知らせします。詳しくは下記へお問い合わせください。
㊞ 県震災援護室
☎022(211)3257

東日本大震災 女性のための面接相談

県内の沿岸地域で予約制の面接相談を実施します（相談無料）。
●内容／離婚問題、配偶者などからの暴力、震災後に感じている不安や孤独、親族・人間関係に関する悩みなどの相談
●場所・日時・申し込み先／①気仙沼市役所・毎月第2水曜午後1時～5時・☎0226(24)5988②石巻市役所・毎月第1・3水曜・午前10時30分～午後4時30分・☎0225(95)1111(内線4233)③名取市役所・毎月第4水曜午後1時～4時・☎022(724)7146④法テラス南三陸・毎月第2・4木曜午前10時30分～午後4時・☎050(3383)0210⑤法テラス東松島・毎月第2・4金曜午前10時～午後4時・☎050(3383)0009⑥法テラス山元・毎月第4木曜午後1時～4時・☎050(3383)0213
㊞ みやぎ男女共同参画相談室（県共同参画社会推進課内）☎022(211)2570

看護学生・未就業看護師などの病院就職ガイダンス

看護師などの県内への就業促進を図るため、病院就職説明会を開催します。
●対象／県内外の看護系大学や看護師等養成所に在学する学生、未就業看護師など
●日時／8月6日(土)午前11時～午後3時
●場所／アエル(仙台市)5階多目的ホール
●費用・申し込み／無料・不要
㊞ 県医療整備課 ☎022(211)2615
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/iryou/kango011-guidance.html

みやぎ優れMONO（もの）対象製品募集

県内企業が製造する優れた工業製品を認定し、県内外に広く発信する「みやぎ優れMONO」の対象製品を募集します。
●応募資格／県内に事業所を置く企業など
●募集期限／8月5日(金)必着
※応募方法など詳しくは、下記ホームページをご覧ください。
㊞ みやぎ優れMONO発信事業事務局（(一社)みやぎ工業会内）
☎022(777)9891
〒981-3206 仙台市泉区明通2-2
http://www1.odn.ne.jp/m-suguremono/
㊞ 県新産業振興課
☎022(211)2722

職業訓練指導員試験

●職種／全職種（123職種）
●試験科目／学科試験（指導方法）
●対象／技能検定合格者など受験資格を有する方
●試験日／9月3日(土)
●会場／県庁内会議室
●申込期間／7月11日(月)～8月5日(金)
●受験案内／下記ホームページからダウンロード
※詳しくは下記へお問い合わせください。
㊞ 県産業人材対策課
☎022(211)2763
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sanzin/minkan12.html

高校生お弁当コンテスト作品募集

県では、高校生を対象に、「地産地消」をテーマにしたお弁当作りを通して、県産食材の活用方法やアイデアなどを競う「高校生お弁当コンテスト」の作品を募集します。入賞作品は、コンビニエンスストア、スーパーマーケットの協力により、商品化が検討されます。
●テーマ／地産地消！みやぎの食材を使ったお弁当！
●対象／県内の高等学校および特別支援学校に在学する生徒
●応募条件／多くの県産食材や加工品を使用し、材料費を300円以内とすることなど
●応募期限／8月26日(金)※応募方法など詳しくは下記へお問い合わせください。
㊞ 県食産業振興課
☎022(211)2813

高校生による国際交流コンサート

平成29年7月に行われる第41回全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文2017）の開催1年前イベントとして、国際交流コンサートを行います。
●日時／7月26日(火)午後1時開場、午後1時30分開演
●場所／仙台市民会館 大ホール
●内容／小鼓舞（大崎民国・大崎女子高等学校）、吹奏楽（泉館山高等学校）、吟詠剣詩舞（古川黎明高等学校）、和太鼓（西山学院高等学校）、合唱（県内9校合同合唱団）
●入場料／無料
●申し込み／電話にて下記へ
㊞ 県全国高校総合文化祭推進室
☎022(211)3878

屋外広告物講習会の受講者募集

県内で屋外広告業を営む場合には、講習会の修了者など一定の資格者を業務主任者として設置する必要があります。今年度の講習会の受講者を募集します。
●期日／8月25日(木)、26日(金)
●場所／仙台市役所本庁舎8階ホール
●費用／4000円
●申込期間／7月25日(月)～8月5日(金)
※詳しくは下記ホームページをご覧ください。
㊞ 県都市計画課 ☎022(211)3132
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tosikei/okugai.html

みやぎ中学生いじめ問題を考えるフォーラム

県内59校の中学生118人が一堂に会し、いじめ根絶のために自分たちができることや、いじめのない魅力的な学校づくりのアイデアについて話し合います。また、ネット上でのコミュニケーションスキルを高める指導などについて、教員を対象とした講演会も予定しています。
一般の皆さんも参観できます。詳しくは下記ホームページをご覧ください。
●日時／8月9日(火)午前9時45分～午後3時10分
●場所／県庁2階講堂、第二入札室
㊞ 県義務教育課 ☎022(211)3646
http://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-ijm/ijme-h28ijimeforum.html

県業務・採用試験説明会

●内容／県の業務や採用試験の説明、個別相談
●対象／平成28年度宮城県職員採用試験（主に短期大学卒業程度、高等学校卒業程度、大学卒業程度（民間企業等職務経験者）、警察官B）の受験を検討されている方
●日時／8月5日(金)午後1時30分～4時
●場所／県庁2階講堂
●費用・申し込み／無料・不要
㊞ 県人事委員会事務局総務課
☎022(211)3761
http://www.pref.miyagi.jp/site/saiyou/

労働問題の解決をお手伝いします

県では、理不尽な解雇やブラックバイト、パワハラなどの労働問題について、労働者と会社との間で自主的な労働問題の解決が困難な場合に、労使間の話し合いによる解決のため「個別労使紛争のあっせん」を行っています。労働問題に詳しい弁護士などのあっせん員が、労使双方の主張や事情を聞き取り、双方が納得できる解決を目指してお手伝いします。また、ご相談の内容により、他の適切な機関などの情報提供もしています。まずは、下記へご相談ください。
●費用／無料
●申し込み／電話にて下記へ※相談内容などの秘密は厳守されます。
㊞ 県労働委員会事務局 ☎022(211)3787
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tiroui/kobetu-assen-1.html

夏期における少年非行の防止とインターネットの安全利用

夏休みは、解放感から気が緩み、喫煙や飲酒、深夜に花火をして騒ぐなどの問題行動を起こす子どもが多く見られます。
また最近では、スマートフォンなどでインターネットを利用してトラブルに巻き込まれたり、性犯罪の被害に遭ったりしてしまうケースが後を絶ちません。夏休みの過ごし方やスマートフォンなどの使用ルールについて、家庭でお子さんと話し合いましょう。
㊞ 県警察本部少年課 ☎022(221)7171

企画／県広報課